

コチョウランのウイルス病(CyMV)

平成18年(2006年)1月30日

阿南市のコチョウランで、葉に退緑斑点及びくぼみを伴う褐色のえそ症状が現れるものが見つかりました。

DAS-ELISAで検定した結果、シンビジウムモザイクウイルス(Cymbidium mosaic potexvirus CyMV)が検出されました。

CyMVは、汁液伝染(接触伝染)し、虫や土壌による伝染はしないと言われています。したがって、株分け、移植、採花などの作業時に、手やハサミなどの器具および作業台等で広がると考えられます。

CyMVは、ラン科植物の40属以上に自然発病し、コチョウランのほかシンビジウム、カトレア、デンドロビウム、バンダ、エビネなどに発生が多く、また被害が大きいとされています。他のラン科植物からの感染、また他のラン科植物への感染に注意する必要があります。

また、品種により病徴の現れかたに差があるようです。

防除法は、発病株を除去すること、株分け、移植等の作業時に、手やハサミなどの器具、作業台等の消毒を行うことが重要です。

・手の消毒 アルコール、石鹼など

・器具、ポット等の消毒

熱 30分～1時間煮沸

強アルカリ 3～5%の第三リン酸ソーダ(ナトリウム)に1～3分間浸漬

塩素(漂白剤) ケミクロンG等

レンテミン シイタケ菌糸体培養培地抽出物

成分は天然のサイトカイニン



葉の表の症状



葉の裏の症状

徳島県農業研究所病害虫担当・病害虫防除所